

平成29年度

第1回岡山市男女共同参画専門委員会要旨

- 1 日 時 平成29年5月11日（木）午後1時30分～午後3時30分
- 2 場 所 岡山市役所1階 本庁舎3階第一会議室
- 3 出席委員 高田委員長、小松副委員長、貝原委員、寺尾委員、土井委員、中塚委員、原田委員、日笠委員、松井委員、光岡委員
- 4 出席職員 小野市民協働局統括審議監  
（女性が輝くまちづくり推進課）逢澤課長、石原課長代理、祇園館長、高村主査、植木副主査、多田副主査  
（介護保険課）小藤課長
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 事
  - （1）岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第2項の適用審査について（報告）
  - （2）岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第3項運用基準適用について（報告）
  - （3）岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第2項の適用審査について
  - （4）第4次さんかくプラン現状値アンケートについて
  - （5）平成29年度女性が輝くまちづくりほか事業概要
  - （6）その他
- 7 配布資料
  - 資料1 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第2項の適用に係る審査票（報告）
  - 資料2 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第2項の適用に係る審査票（第19条第3項運用基準適用）
  - 資料3 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第2項の適用に係る審査票
  - 資料4 第4次さんかくプラン現状値アンケート（案）
  - 資料5 平成29年度事業概要
  - 資料6 事業者表彰
- 8 会議の状況
  - 議題1 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第2項の適用審査について（報告）
    - 資料1-1「平成29年2月9日審査 介護認定審査会」
    - 資料1-2「平成29年2月9日審査 介護認定審査会(H29.4.1から3年間の委嘱について)」

上記いずれも、正副委員長に承認いただいたことを報告。（事務局）

## 議題2 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第3項運用基準適用について（報告）

資料2 「平成29年2月9日審査 介護認定審査会」

H29.4.1委嘱分比率が前回より0.1%上昇したことを事務局から説明。正副委員長に承認いただいたことを報告。

## 議題3 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第2項の適用審査について

資料1（3の差替え）について事務局より説明。介護認定審査会について、女性比率が前回の36.4%より下がったことについて、所管課から説明。小藤課長から介護認定審査会についての概要を説明の上、女性比率がさがった理由について下記の通り説明あり。

<理由>

男性医師2名の急な辞退を受けて、その部分を4名の男性医師で補うことになったため、平成29年6月1日の委嘱にて、委員数が280名から282名に変更。女性が減ったわけではなく、男性が純増したことによる比率減である。

### 【委員からの主な意見と所管課回答】

- 審査委員は原則5名のはず。4名にしている理由は何か。
  - ・ 委員の確保が難しいため。4名体制の都市も多く、どこも人員の確保に苦慮している。
- 委員は公募しているのか。
  - ・ 公募はしていない。専門性が高いため、職能団体からの推薦に頼っている。
- 保健福祉分野は女性が多い。それにもかかわらず女性が少ないのが疑問である。医師以外の3名は女性としても女性割合が伸びないのはおかしい。
  - ・ 合議体には必ず医師が1名必要であり、医師は男性の割合がとても高い。また医師は入れ替えが頻繁にあるため、延べ人数で計上すると医師の男性割合が多くなる。
- 委員の年齢層が高いのが気になる。積極的に若い人をいれるべきでは。職能団体に推薦を依頼していると、年齢層が高くなるかもしれない。依頼のやり方を検討してはどうか。
  - ・ 若い人へのアプローチ方法を検討していきたい。
- 女性にアプローチできる方法を模索した方が良い。女医会などもある。それはすぐにできるか。
  - ・ すぐには難しい。任期更新を行い初年度が開始したところ。辞める人がでないと難しい。3年後には実践できると思う。
- 医師以外の職種を増やして、合議体人数を5人にしてはどうか。
  - ・ 合議体人数を増やすとなると大きい話になるので事務局としては対応が難しい。予算の制約もある。
- 市として、国の原則（審査合議体は5名で構成する）に沿っていないことについて、問題意識はあるのか。
  - ・ 今までにそれについての議論が行われたことはない。また、なり手がいない理由として、委員の事務負担はかなり大きいものとして認識されており敬遠されている可能性がある。
- 委員会としては①審査会のあり方を検討する（合議体の人数を4→5名に）②女性委員を増やすために、新たなアプローチを模索する。という2点を提案したい。対応は可能か。
  - ・ ②については、今までと同様にこれからも目指していきたい。①については大きい話になるため、この場では即答しかねる。
- 合議体人数を増やすにせよ、女性委員を増やすにせよ、やるという確約がないと、いつもど

おりこの場限りの話になるのではないか。事務局はどう対応するのか。

- ・ 改選の都度、女性割合についてはチェックをしており、男女共同参画の視点から主管課には引き続き強くお願いをしていく。（女性が輝くまちづくり推進課回答）
- ・ 抜本的に変わらないと、同じことが続く。担当課は、3年後に同じ状態であれば否決されるというつもりで、次の課長に送りをしてほしい。
- ・ 委員会からの意見を、審査会委員の推薦団体にも伝えてほしい。

【結論】意見を付す条件で認める。

#### 議題4 第4次さんかくプラン現状値アンケートについて

アンケートの概要について事務局より説明。前回からの主な変更点（資料4赤字部分）は下記のとおり。多くは第4次さんかくプランの成果指標に合わせて変更を行うもの。

##### 【主な変更点】

〈市民アンケート〉

（問2）

「メディア表現の中での男女平等感」を問う質問から、「こどものインターネット使用におけるフィルター利用率」を測る質問に変更。

（問3）

経済的圧迫、性的強要の項目を新たに追加。（DVの 카테고리ごとに質問を1つずつ設けた。）

（問4）

質問の中で、家族構成（男性やこどもの有無）を確認していたが、今回から「男性のみ・女性のみ・こどもがいない家庭」の方は回答が不要である旨を明記した。

（問7）

仕事と生活のバランスを問う質問のため、仕事をしていない人は回答が不要である旨を明記した。

（問8）

休暇の取りやすさについて問う質問のため、本人または配偶者・パートナーが仕事をしていない人は回答が不要である旨を明記した。

（問9）

第4次さんかくプランにおいて、「健康診査」に表記統一をしたことにあわせ、アンケートの表記も「健康診査」にした。ただし、一般的に使用される「健診」も併記した。

（問11）

新たな成果指標「LGBTの言葉の認知度」を測るための質問を新設した。

（問12）

「男性も女性も、社会のあらゆる分野において～」の表記を「性別にかかわらず、社会のあらゆる分野において～」に修正した。

〈外国人向けアンケート〉

アンケート表記は修正なし。ただし、成果指標については、これまで問4－（3）で「いる」と回答した人の上昇率としていたが、第4次さんかくプランからは、問2で「住み続けたい」「できればこれからも住み続けたい」と回答した人の上昇率に変更した。

<3歳児健診アンケート>  
アンケート表記は修正なし。

<事業者アンケート>  
(問4)

セクハラに限定しない表現にした。(セクハラなど性別にかかわるハラスメント)

(問5)

上記の修正にともない、セクハラ防止研修の有無を問う質問を、ライフワークバランスの取組を問う質問に変更した。

(問6)

新たな成果指標「女性の管理職を増やすために具体的な取組を行っている事業者の割合」を測るための質問を新設した。

<小学・中学生向けアンケート>

委員会の意見を反映し、自由記載欄を設けた。ただし、「自由記載欄が多いと記載せずに済む項目を選択するようになる可能性がある」との指摘を教育委員会から受けたため、現在検討中。

#### 【委員からの主な意見】

<市民アンケート>

(問3)

- 配偶者やパートナーがいない人は回答が難しいのでは。回答が不要である等の記載がいるのではないか。実際に被害をうけているかどうかの体験を問う項目ではない。認識度を測る項目のため、配偶者やパートナーがいない人にも一般論として回答してもらえばよいのでは。
- (2) 「何を言っても」を「何を話しかけても」に修正したほうがよい。
- (3) 雑誌のみでなく、映像も対象に入れるように。
- (5) チェック内容に「行き先」も入れるように。
- 各設問に「身体的暴行」「心理的攻撃」といった専門用語での括りをいれれば、啓発になる。  
(1) 身体的暴行 (2) 心理的攻撃 (3) 性的強要 (4) 経済的圧迫 (5) 社会的拘束

(問7)

- 「仕事」の定義には家事・育児を含めるのか。
  - ・ 国の定義では含まない。また、調査結果を国や他自治体と正確に比較するためには家事・育児は含めない方がよいと考えている。(事務局)
- 過去との整合性も鑑みて、混乱を避けるためにも「仕事を持っていない方は問8へ」の表記は削除してはどうか。

(問8)

- 過去の議論の中で「男」「女」の表記は避けた方がよいという話であったと思うが、アンケートの中に散見される。
  - ・ 第4次さんかくプランの成果指標の中で「男性・女性」という表記がでてくる以上、アンケートも指標に合わせた表記にしており、成果を正確に測るために必要であると考えている。(事務局)

(問10・11)

- 言葉の定義を読ませた後の設問なので、回答項目は「知っている」よりも「知っていた」の表現が適切ではないか。

(回答者属性)

- 働き方の選択項目が勤務形態と職種と混在してしまっているうえに、兼業や法人農家等の多様な働き方に対応していないように思える。「8. その他 ( )」を選択項目に設けてはどうか。

<外国人アンケート>

- 住民票のある外国人とない外国人の数は把握しているのか。
  - ・ 正確な数字は即答できないが、第4次さんかくプランの資料 (P.44) によると外国人市民 (住民票のある外国人) は1万人を超えているようだ。(事務局)

<3歳児健診アンケート>

- アンケート結果は世帯類型ごとにクロス集計を行うことが望ましい。

<事業者アンケート>

(問2)

- 「1. 男性も女性もいる」と回答した場合、男女の人数 (男女比率) を記載してもらってはどうか。
  - ・ 研修に参加した人に対して、その場で記入してもらおうアンケートのため、数字をその場で即答するのは難しいと思われる。(事務局)

(問5・6)

- 取組を行っているとは回答した場合には具体的に事例を記載できるよう十分なスペースの自由記載欄 ( ) を設けるように。
- 自由記載欄でもいいが、例えば介護休暇等の優良事例をいくつか選択項目で用意しておけば統計を出しやすいのではないか。

## 議題5 平成29年度女性が輝くまちづくりほか事業概要

事務局から資料5にそって説明

閉会